

令和6年12月

師

あ お ぞ ら

走

第406号

鹿屋市青少年育成センター

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「社会の構成員を育てる社会の構築」

鹿屋市立田崎小学校 校長 岩戸 淳

私事で恐縮だが、高校1年生のときに音楽の先生から「あなたには絶対音感がありますね。」と言われた。ピアノなど習っていたわけではない。それ故に運指はたどたどしくも曲を聴いて覚えては確かに弾けた。このことがきっかけでシンセサイザーなどの電子楽器に没頭した学生生活を終え、意気揚々と赴任した初任校。ところが、無念なことに音楽の授業実践を行えたのは4年間のうち1年間のみ。校長から毎年「学校運営上の理由」と諭された。そんな欲求不満状態の中、再配校で転機は訪れた。

大島地区北部、町役場の隣に位置する1学年1学級の小学校。管理職を含めた職員のうち4分の3を大島地区出身者が占めていた。入学試験の合格は午前3時を超えた。そうか。郷に入らば郷に従え。舟こぎで舟が足首に乗りかかって骨折。治った頃に八月踊りと六調。テンポとリズムが体に染み入り、同僚を説き伏せ、計画になかった運動会に強引に導入。そして、集落相撲・招魂祭相撲に向けての練習。練習後は毎度ちゃんこ鍋と黒糖焼酎を囲み、二日酔いで学校へ。徒歩通勤だったからこそできたこと。子どもたちも保護者も寛容の眼差しを向けてくれていた。(のかも?) 中央公民館のコーラス講座講師として、十数人の受講生とともに心底楽しみながら加計呂麻慕情や本茶峠など新民謡に浸った日々。若気の至り。ものすごい体力の消耗を感じながらも、やりがいと楽しさがそれをはるかに上回った。その後の社会教育主事講習受講、少年自然の家2か所と社会教育行政1市での職務遂行は必然だったのかもしれない。

今、教育の営みの原点は何かと問われたな

ら、「ヒト」を一人前の「人間」に育て上げることと答える。そのためには、他者との関わりという視点が欠かせない。言い換えると、教育とは社会とつながる機会をつくるということであり、豊かな人間性というものは豊かな人間関係の中でしか培えないということである。

この世に「ヒト」として生まれた我々は、親や祖父母、兄弟姉妹をはじめ、おじおば、いとこ、近所の友達、地域のおじさんお婆さん、保育園やこども園、学童保育、学校の先生や友達等々、周りの身近な社会を自分の中に取り込んでいく過程で社会性や人間性を身に付けていく。高度経済成長を経て労働力が都市部へ大量に移出し、そこへの一極集中によって地域の共同体がほころびた。グローバル化や効率化を求める社会の流れ、ソサエティ5.0を目指す社会に加え感染症の脅威により、お互いの顔が見える緩やかなつながりであるとか、温もりのある関係づくりが失われた。ふっと、漠然とした不安に駆られる。うまく言い表せないが、社会の構成員を育てる社会の構築から遠ざかりつつあるのではないかと。社会の根底が揺らいでいると言えは言い過ぎだろうか。事は社会全体の課題である。今こそ意図的に、豊かな人間関係を広げるための輪と将来の社会の構成員を育て上げる枠組みを構築せねばなるまい。

